1978

義太夫協会々報
第16号
昭和53年8月 8日
社団法人　義太夫協会発行
〒104　東京都中央区銀座
6－18－2
新橋演舞場別館 TEL(541)5471

若手女義連大いに語る

会長　吉川英史

私はその夜うら若い女性九人に取り囲まれていた。正確にいえば、「うら若く見える」女性も混っていたかも知れないが。とにかく、男は私一人であった。義太夫協会若手懇談会の宵のことである。

別に、私が若い女性だけを選んだわけではない。いつも義太夫協会の役員会にお集まりの方々は比較的高齢者なので、一度世代の違った若い人たちの意見も聞いておきたいと思って、集まってもらったら、結果として女性だけになった次第である。しかし、考えてみれば、ここにもすでに義太夫協会の問題があるのではなかろうか。女子義太夫協会ではないのだから。

さて、その際の話題の中から、紙数が許す限り、次に収録しておく。—

○長期的企画を　目下本牧亭での義太夫協会の定期演奏会に、若手も出演させて貰うのは有難いが、急に決められたのでは、仕事の都合で出演できないとか、出演できても稽古の日数が不足で、うまくできないので困る。一年くらい前から長期的企画を立ててもらえないだろうか。

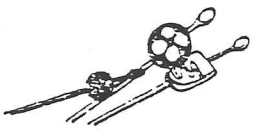
○若手だけの公演も　本牧亭公演の前座も結構であるが、八月公演など、若手で企画した若手だけ出演の公演も如何であろうか。「忠臣蔵」の通しに挑戦するとか、芸の未熟を頭で—企画で—補いたい。

○レパートリーの増加　新しい企画にはレパートリーの増加が必要であるが、そのためには自分の師匠が持たない曲も、他の師匠から習いたい。—師匠と弟子の間の礼を失しないことを前提として。（関西の箏曲界では、多くの派が共同主催で、珍しい曲や他派の曲を教える講習会を開いているのは、参考になる。）

○稽古不足の解消法　現在の師匠たちの修業時代は、毎日血みどろな稽古をされ、それが今日の芸を作った。ところが、今日の若手の稽古はせいぜい一週に二日か三日、それも短い時間であり、厳しさも違うようだ。これでは将来が思いやられる。

しかし、昔のように、毎日の稽古ということは、現代の生活では無理であろう。結局、その時間の短縮を補うには、新しい方法が必要になる。

（次頁下段へ）



残暑お見舞

副会長　豊沢仙広

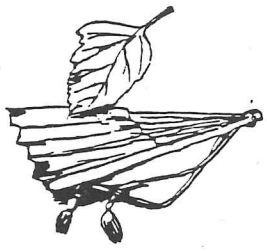
今夏の急激な炎暑に協会の皆々様、御無事にお過しかとお案じ申し上げております。

私は毎年七・八月は本牧亭を休演するのですが、今年は八月の若手勉強会で忙しく、三生さんの病気休演で私が休むわけにいかず本牧亭にも出演、また「油屋」「野崎」の放送と、次々と働きましたが、この暑さに疲れもせず、八十歳の身で勉強の尊さと楽しさをつくづく有難く感謝しております。

八月の本牧亭公演で、正会員の若手、一生懸命に努力しております。一日も早く若手の芸を伸ばしたいと、協会初めての企画で、如何に成り行きますか、芸術の趣味を共にする賛助会員の皆様に、お願いです。八月二十日・二十一日、本牧亭へ是非是非お運び下さいまして、後継者育成のために今後のより良きお知恵とお指図を承りますよう、伏してお願い申し上げる次第でございます。

今年も六月から始めた義太夫教室の生徒さん、熱心に義太夫節の勉強をしていられます。この大切な生徒さん達、義太夫節が本当に好きになって頂けるように、講師の先生方を始め、役員一同努力しております。

東京は義太夫ブームになりつつあります が、今後ますます盛んになるよう、そして近松文学で日本人らしい人間づくりをと、こんな事を私は楽しんで、一人でも多く、古典芸術最高の義太夫節を好きになって頂ける様にと、皆様の御健康と共にお祈り申し上げております。



（前頁より）

テープによる自宅での自習もその一つであるが、その他、洋楽の教則本や教授法を参考にした方法を作り出さねばなるまい。しかし、それは現在の師匠たちに求めるべきことではない。義太夫研究者や若手義太夫人の今後の重要な課題である。特に、実演で口移しに教える以外に、説明で教えることを研究する必要がある。

○新しい演奏会場を　本牧亭以外に、お寺や神社の広い座敷を借りるなど、費用を節約して、たびたび演奏会や稽古場を持ちたい。

一方、今の一般の人は座ることが苦手で、そのために本牧亭などは敬遠されるので、ガスホールなど、椅子席の会場を考える必要もある。本牧亭でも、もっと椅子席をふやせないものか。

○若手の集まりを　今回集まったもののほか、若手の同志に呼びかけて、若手の会を結成したい。そして、共に語り、共に勉強したい。無論、協会の中で、協会と調和し、協会の援助によって動くような集まりにしたい。

……　……　……

若手女義連の意気天井をつき、時計は九時半を指したところで、散会。

結相撲誉二代鑑

―九月本牧亭にてお聞きに達します―

豊沢猿三郎

先年来、協会女子部若手一同に、勉強のため、平常上演されない演目の稽古を依頼され、「大序」「竹の間」「七福神」等々を発表致しました処、お蔭様で大変な御好評を戴き、引続き稽古をと存じましたが、何分にも演目の定めも簡単には参りませず、「勘平陰腹」「腰越状の五斗生酔」「出入港の瓢箪町」等種々考えましたが、一寸若手には無理と思いまして一考中、大幹部の土佐広さんが理事の皆さんに呼びかけ、私達も何か珍しい語り物を稽古して貰おうではありませんかと、即座に一同賛成で話がまとまりました。本年は、義太夫協会の本牧亭興行の三十周年に当り、九月は時あたかも秋場所大相撲の折でもあるので、右表題の秋津嶋切腹を、日柄のよい六月廿四日、大安日より稽古しはじめました。土佐広さんの言い出しで皆さんが稽古をすることになりましたのは、協会のため、また義太夫発展向上のため、誠に喜ばしいことと存じます。

この浄瑠璃は、東大関の秋津嶋が、御主人筋の某大名の若殿の愛人、傾城大淀を身請けするため、自分初め弟子達の給金を使ったことに端を発し、弟子達が西大関の鬼ケ嶽の許へ訴えます。鬼ケ嶽はこれを口実に、秋津嶋を雪駄の金具で眉間を割り、帰ります。秋津嶋は、奥で様子を見聞した大名家の家老に、明日の千秋楽の土俵に上ることを差し止められて、無念の腹を切り、臓腑血汐を倅国松に呑ませます。其の念力で倅は抜群の力持ちとなり、母の兄、行司木村庄九郎と角力をとり、投げ飛ばします。父は喜んで冥途の花角力と、倅を土俵へ見送り、国松は秋津嶋と父の名で土俵に上り、大関鬼ケ嶽を土俵へたたき付けるという、悲しい目出度い二代鑑であります。

どうぞ九月の本牧亭をお楽しみにお聞き下さい。　配役は ―

東大関　秋津嶋	竹本　土佐広
西大関　鬼ケ嶽	竹本　素　八
秋津嶋弟子　前頭　籠石	豊沢　公　佳
〃　〃　鳴岩	豊竹　公二郎
家老　高倉隼人	竹本　朝　重
傾城　大淀	竹本　駒　竜
お里兄　行司　庄九郎	竹本　越　道
秋津嶋女房　お里	竹本　綾之助
秋津嶋倅　国松	竹本　綾　一
三味線	豊沢　猿三郎
ツレ弾	鶴沢　駒登久

✿芸能人健康保険のおすすめ✿

俳優協会で行ったアンケートの中間報告によると、健康管理と保障の問題に最大の関心が払われています。また今年から公営（23区）の保険料が大巾に上っています。芸能人健康保険の保険料は前年度の課税標準額により算定され、家族は一人月額一、三〇〇円ですから、こちらの方が安くすむ場合が多いのではないでしょうか。一度御検討下さい。

お問合せ、お申し込みは事務局まで

〔曲節メモ〕3

『半中（ハンチュウ）』豊後節のこと。京浄るりの一派で、都一中の門人で都国太夫半中と称し享保十五年宮古路豊後掾となる。江戸では享保年間大流行、心中道行物の多いその語り物は曲節が艶麗で男女の風俗が乱れるというので、禁止令が出た程である。豊後節から分派した常磐津、清元、新内、富本、薗八を総称して豊後節という。義太夫節も豊後を採入れ、その艶ややかな曲風を使っている。

野崎村へ切っても切れぬ恋衣や、本の白地を生仲にお染は思い久松が…

新口村へ為かや今は冬枯れて、すゝき尾花はなけれども…

（弥）

義太夫上達法の内、天狗の話

息を長く、腹を強くする方法

河野国声

私は日本の三味線というものを、世界一の楽器だと思っている。自然世界の情景を弾き、人間の感情や、心の内容変化までをこれほどよく表現し得る楽器はほかにはない。

殊に義太夫のように、命がけで練り磨かれた芸術は、人類世界には唯一最高のものと自負してはばかることはないと思う。

義太夫の太夫と三味線を、陰陽男女の関係にたとえて、三味線は太夫に従って、太夫を引きたてる役目となっているが、実際には太夫が偉かったか、三味線弾きが名人だったかについては沢山の事例が、三味線弾きに太夫を仕込んだ人の多かったことに鑑みても、三味線のむずかしさと苦心の程が一通りのものでないことをつくづくと思わされるのである。

私は古靭大夫師と清六師のことをよく知っているだけ、それを痛切に感ずるし、名人土佐大夫を弾いた夙川の師匠野沢吉兵衛さんの教えを受けて、その禅僧か古武士のような厳しさを知っているだけに、三味線の名手が太夫以上でありながら、常に己れを殺しつつ、息と腹とで太夫を助けている。あの力こそ日本芸道の生命だと、驚歎し恐れをなしているものである。元来芸術は信仰以上のものだという認識の上に立って稽古に励んだので、常に私の師匠には日本一の人を選んだものである。

私はあまりにもよい芸を聞いたり、稽古のむずかしさを知っているので義太夫に恐れをなして引っ込んでしまったが、先日菊地秋月氏のお奨めで、三越邦楽会で忠臣蔵七段目の一人語りをやってみたが、八十歳を過ぎた体からよくもあんな大声が出たものだと、我れも人も驚いたので、その後五、六回仙広師宅で古いもののおさらい稽古をしてもらっている。

中にも古靭さんの新屋は、私に取っては特に思い出の深いもので、師が東京に来られるたびに何回もご指導を頼ったものだけに一しお懐かしさが深い。縄付きまでの一時間余りを、一気に語り切れる腹の強さと、息の長さには、自分ながら感心するが、それには息と呼吸の腹構えというこつがある。

名人清六仕込の仙広師の絃と、古靭大夫師の芸を二十段も覚えた私の息は合うも合わぬもない。実に楽しいものである。又再び天狗が始まるかもしれない昨今である。

しかし天狗にも二種類があって、鼻持ちのならぬ下手な天狗にはなりたくない。義太夫は不思議な芸術で、下手な人ほど天狗になる。「落語の寝床」はそのよい例だが、天狗になったら芸はおしまいだ。

義太夫は人の心を語る生きた禅である。一人の太夫が十人もの登場人物を空気中に、自由巧妙に描き出す空中劇場の大表現である。腹と腰、両脚の台座で梶を取り、口と鼻とで情景や思惑を十分に語り出す空中サーカス、手品といえば、手の動きもこれに加わって、体中のすべてが一ぱいに働らく、不思議な芸術なのである。

下手な天狗は鼻を高く向うへ伸ばすが、上手な天狗は、腰を横に拡げ、鼻の穴を左右に開いて、芸の全体を掴み、口を横に横にと大きくあいて、五十音をはっきりと顎で語って、発声をらくにする。肩に力を入れたり、のどで気張る人などは、上半身と下半身の他力自力を逆にしている外道禅で、芸道人とは言われない。

その点七月二十七日放送の土佐広師の油屋などは、体一杯で軽く語っているが、あの音遣いのすべてに、鼻がどれほど効いて居るかを聞き分けた人は少なかろう。

名人土佐大夫の鼻声は有名なものだったが人間に鼻の存在、この無用の要がどれほど大

きいものかは、禅を経験して、鼻から腹まで、静かな宇宙呼吸をした人でなくてはわからない。浄曲の奥義無声妙の秘訣もここにある。

人間の鼻と腹とは、呼吸と息とでよく通じ合うもので、腹の力を上手に鼻に抜く要領がわかると、全身でらくに、無理なく、どんな難ぶつでも、うまく語れるものである。

老大家になると、自然にこの工夫ができるもので、晩年の吉田文五郎丈が、楽屋では私が行っても、見えず聞えずの骸骨のような超老で居ながら、舞台へ立てばしゃんとしたのは、鼻の働きである。この秘密を知る者は、私一人だったろう。それはヘレンケラーの鼻の力を研究したからである。

これは特に体力の無い人向きの要領で、体力の有る人はさらに芸が大きくなる。この工夫は面白い。

鼻の力と腹の力と、この上半身の呼吸と、腹、腰下半身の力のことを、白隠禅師は腰脚足心の力と言った。つまり下半身の息と上半身の呼吸法とが自由につながれば、人間は達人にもなれるし、芸術家はみな名人上手になるということなのである。

天狗とは天の狗のことである。犬の鼻ほど人情の機微変化を嗅ぎ分け、人間を語る勘が鋭ければ、天狗も大いに奨励すべきである。しかしほんとうに芸道の厳しさがわかれば、天狗になるどころの話ではない。

義太夫をうまく語る体力、エネルギーは、自然界から吸収する空気から作らねばならぬ。

体力造りに食べもののことを考えることは大間違い。食べ物は何でもよいから、よく噛むことが肝腎である。大食飽食はいけない。それより眠りが大切で、常によく眠ることを心がけること。そうして空気を沢山吸って、大気の中から直接エネルギーを摂って、この大気を体気に切り変えて芸術力を作るという秘法秘訣、この要領がわかれば、八十を過ぎても若い者に負けないほどの力が出るのである。

これは義太夫上達の方法のみではない。天寿百歳、人間完成への大道なのである。その息と呼吸の仕方を言うならば、毎朝目がさめたら、すぐ起き出さずに、仰向きのまま大きく息を吐くことを何回も何回もくり返して習慣にする。こうして体中の息を吐き切ることに馴れると、長い長い息ができるようになる。長息は長生きに通ずるもので、これ以上の健康法はなく、だんだん人間性が落ちついていかなる義太夫もらくに語れるようになる。

かつて土佐広師から国声さんの光秀は、などとほめられたこともあるが、あの腹の強さと息の長さは、六十年間一日も怠らぬ腹帯のおかげである。

私は大正五年から腹帯を忘れたことがない。義太夫語りが床に上るとき腹に巻くような腹帯を、今でも毎日しめて生活している。お角力さんのしめ込みのような腹帯の効果は、人生には実に莫大である。

いつも腹の中心で、魂が目ざめている。足腰も据っているから、人間性がしっかりして八十過ぎても呆けることもなく、若い者に負けずに今でも毎日自動車の運転を続けている。

この息の長さと腹の強さは同事同一のもので、お角力さんが、締め込みの上に腹をのせて土俵に上り、太夫が腹帯をしめて床に上るときのように、常に下腹で精神統一ができていると、心はゆったりし、胸も肩も軟かく上半身の圧力が全くぬけて自由になるから、間も息も、味も模様も思うように語れて楽しく、その語りの要領がそのまま人間の悟りになるのである。

古靱節のような巧妙な音遣いや、三味線との呼吸など、義太夫の妙味は、お稽古のときでも真剣そのもの一本勝負、この腹構えがなくては真の味は出るものではない。

私が永年浄瑠璃から離れていても、芸が下らず、一寸稽古すればすぐ昔に戻れるのは、常に腹の力を養って、人間性を忘れないからであり、よい師匠に真剣についたおかげと、呼吸法と腹帯のたまものであることをしみじみ思う。

猿幸師がお元気な頃、太十、野崎、菅四、忠七、合邦、堀川など一段丸ごかし弾いて頂いた録音テープが今もあるが、あとに残るものですからよい三味線で弾きましょうと、別な三味線を出して弾いて下さった思い出などは、芸を大切にする人の心構えの尊さを思い出している。

素人のくせに全段丸ごかし語ることなど、師匠にはご迷惑でも、私だけは素義だの趣味だのという気がないだけに、師匠もついその真剣さにつり込まれて弾いて下さる。吉兵衛師などには三時間も仕込まれたことがある。求女さんがそばで羨ましがったことがあるが、弟子が真剣になれば師匠の喜びは大へんなもので、芸道には玄素の区別などはないものである。

私は義太夫については全く幸せを一人で背負っているような男である。殊に古靱師との思い出や遺品は多い。すしやの床本も、求女さんを引き立てた杉山茂丸先生から古靱師に贈られたものを、古靱師から由緒書きをつけて頂いたものである。

綱大夫さんや越路さんと古靱師匠関係はみな知っているが、津大夫さんが山城少掾時代に師匠につくした誠実さにはいつも心を打たれたものである。

今の文楽座では、私の知人も多く故人となってしまったが、先代津大夫師のレコードでも私は何段もお稽古させて頂いたが、中にも沼津などは絶品である。こうした貴重品も今では簡単にカセットテープで聞くこともできるので、テープで勉強するこつや要領なども伝え遺したく思っている。

私方には義太夫レコードの珍品がたくさん有るが、この名人達の芸風を学んで頂きたいものである。

七月二十七日放送された土佐広、仙広両師の油屋もよかったが、先年放送された土佐広師の引窓のよさは、まさに天下第一である。

先般関西素義の大家連の義太夫を本牧亭で聞いたが、日本の第一級浄瑠璃が東京で聞ける鈴木一光氏のお骨折りに感謝したい。

次回は十月二十一日本牧亭で秋の会が催おされる。長崎の広瀬清笑氏91歳の忠四や、大阪の斉藤義勝氏の名調子など、何をおいても聞いて頂きたい素義の圧巻である。（未完）

昭和五十三年度（第三十一期）義太夫教室終る

本年度の義太夫教室は、六月一日開講、八月一日の閉講迄二ケ月催されました。男子十五名、女子二十五名、計四十名、平均年齢約二十五歳で、皆勤者八名、精勤者十名で、まずは例年どおりという成績でした。

内容は、毎週火曜と木曜で、午後六時より講義（吉川講師の語り物の歴史1～4・景山講師の義太夫節の歴史と特色1～4・佐々木講師の作品研究1～3・弥乃太夫講師の音調基本1～3・綾太夫講師のレコード鑑賞他）、七時より実技（重造講師の義太夫節基本2回・越道講師の柳・いろは送り8回・素八講師の尼ケ崎5回・弥乃太夫講師の三味線実技2回）と二時間行われ、その他課外授業として、六月二十日、七月二十日の本牧亭公演会の鑑賞が行われました。この後、実技実習が三月末まで継続される予定です。

社団法人義太夫協会　昭和52年度収支決算報告書

貸借対照表　53. 3. 31現在

（借方）

科目	金額
現金	84,096
当座預金	3,634
定期預金	3,000,000
預貯金	7,835
郵便振替	14,065
未収入金	3,655,000
敷金	200,000
什器備品	867,565
電話加入権	73,438
合計	7,905,633

（貸方）

科目	金額
基本金	3,000,000
運用財産	1,100,000
前受金	144,000
借入金	2,600,000
預り金	1,197,280
未払金	3,768,840
繰越金	△ 600,239
小計	11,209,881
差引損益	△ 3,304,248
合計	7,905,633

損益計算書（52. 4. 1 ～ 53. 3. 31）

収入の部	勘定科目	支出の部	差引損益
3,700,000	助成金		
1,255,500	寄附金		
1,082,000	会費		
187,541	雑収入		
6,225,041	（小計）		
	事務所費	10,498	
	家賃	360,000	
	事務用品費	29,600	
	事務費	24,740	
	給料・諸手当	940,400	
	交通費	116,100	
	通信費	213,120	
	交際費	93,000	
	会議費	71,950	
	水道・光熱費	21,315	
	倉敷料	65,000	
	印刷費	141,900	
	税金	9,000	
	宣伝費	18,000	
	研究室	100,000	
	講読料	37,800	
	資料	4,800	
	会報	86,920	
	雑費	33,150	
	雑損失	446,600	
	手数料	5,940	
	（小計）	2,829,833	
1,156,260	義太夫教室	3,103,670	△1,947,410
976,600	協会公演会	3,854,010	△2,877,410
270,000	学校巡演	1,178,930	△ 908,930
91,000	教師講習会	1,521,870	△1,430,870
418,212	慈善公演	365,138	53,074
577,600	都邦楽祭	295,650	281,950
187,620	新年会	147,200	40,420
0	祖先祭	46,780	△ 46,780
290,000	小土佐追善会	278,500	11,500
155,000	芸団協	30,000	125,000
4,122,292	（小計）	10,821,748	△6,699,456
10,347,333	合計	13,651,581	△3,304,248

義太夫三昧

―この一年―

柴田　久成

ふとしたきっかけで友人にすゝめられ、本牧亭を初めてのぞいたのは去年の四月、それから毎月欠かさず通い続けて一年有余、よくよく縁があったと云うべきです。

昔学生時代、近松の戯曲が教材に使用されていて若干興味をいだいた頃があったという程度の他、文楽は勿論、歌舞伎鑑賞の下地さえ殆んどなかったので、あの流麗に書き綴られた義太夫の素語りをば、いきなり耳にしただけでは大ざっぱな荒筋が聞きとれると云う以上にとても味わうまでの余裕も持てませんでした。かと云って、兎角興味本位且耽美主義的に脚本されてある歌舞伎に印象づけられて後にその筋書を知識にして義太夫を理解して行こうというのは、先にドラマを見てからでは原作を丹念に読み直してみる気力までがそがれ勝ちになると同様、この際寧ろ下地のないのを幸い、苦労しても五行本をコツコツかみくだいて、語りを本義とする義太夫の基礎から親しみを味わい、而る後それに綾なす太棹の模様づけをば学びとっていけたらと発心したのは七月頃でした。そこで協会に入会し、腰をすえて少しずつ勉強していくことにしたのです。

未知の世界にふみ込んで先ず必要なのは道しるべです。特定な師匠に交誼を求めて教えを乞うことも一つの方法でしょうが、情義が或は勉強をこえて妨げとなる場合もないとは云えませんし、慎重を期しました。私はもう会員になったのだから協会の窓口を利用するのが一番いいと考え、それからは遠慮せずに訪ねたり電話をしたり、また参考書もコピーさせて貰ったり、水野さんには一方ならぬお世話をかけました。そうなると本牧へ行くのもだんだんと楽しみになり、言葉こそ交さぬものゝ顔客の顔ぶれにも馴染み、太夫・三味線の名前も覚え、つまり座全体の雰囲気に親しみを感ずるようになり、心の余裕が出て来ました。

参考書も少しづつ集り、文楽公演と云えば国立へ出向き、今ではレコード・カセットも可成り収集できました。院本に取組んで一字一句おろそかにせず解読し、内容を研究する。数を聴きに出かける。暇さえあればレコードはかけっぱなし、同じ出しもので別の演奏者のものをカセットに再録して比較検討する。扨てものごとにこると云うにも限度があり、健康上の点もあり又周囲の家族とのかね合いもあることです。最近のところ、これをどの程度迄抑制していけるかゞ課題になりつつあるようです。でも私はまだ二年生、こうありたい、こうして貰いたいと云う希望も一杯ありますから手がゆるめられそうもありません。

最近の文楽公演も大仰な鳴りもの入りで、いささか官能本位に傾斜気味、その点歌舞伎とも近づきつゝあると云えないでしょうか？

聴衆の御気嫌に合せて師匠がそのお守りをするようでは義太夫界は低下する一方、聞き手が自分の耳を養って師匠の方を刺戟するようになれば自然と向上して行く。要は聞き手に責任ありと云うのが真実!!

その点女義の世界は烈しい世間からの拘束を受けることも少ない言わば無風地帯、いじけさせられる事がないから師匠方もオットリ型!!ユッタリとそしてシットリと素語りを楽しませて貰えるとしたら此処しかないと云う事になれば師匠方にもいよいよ奮闘していたゞかねばというのが私のこれからの願いです。

最後に私の狂奔振りをおはずかし乍ら最近の日課の一こまについて公開して皆様の御審判をあおぎたいと思い書き加えました。

七月廿一日（金）…昨夜本牧で重之助・仙広両師の寺子屋を堪能させて貰ったが、偶然にも一ケ月程前から会社の休みを見ては、自宅で床本を出しそれに独勉で現代語訳を試みんと、丁度寺子屋の一字千金二千金からスタートしていたのが、やっと今日は　アイと返事のその中に……からいろは送りの段切り迄と漕ぎつけたところだった。

一、朝食もすんで息子共を会社へ送り出したところで部屋の掃除をすませ、涼しい内にと机に向った。脇の壁には寺子屋橋から寺子屋跡の地図、その横に登場人物表が貼ってある。

二、扨て床本をひろげ「浄瑠璃通解第二巻」

から註釈を捨い「古語辞典」で上方用語を調べ書き込みを初める。書き終えたところで、ゆっくりと数回通読し文意を研究する。

三、次に国立劇場発行の上演資料集「菅原伝授手習鑑」の中から解説と鑑賞と芸談だけを理解できるだけ捨い読みをする。

四、レコード鑑賞……いろは送りが入っているのが二枚ある。一枚は越路・喜左衛門。一枚は吉大夫・寛治。この部分だけカセットに再録し交互に比較研究する。

五、これ丈の予定が一応終ったのが午後一時頃。そこで昼食。暫し横たわって冥想にふける。義太夫節について山田庄一著「日本の伝統音楽」よりを毎回通読することにしている。

六、午後四時、上演資料集「伊勢音頭」油屋、奥庭の段と床本とを基礎知識として目を通し本牧へ出向く。土佐広・仙広両師の公演があるからだ。二十七日の夜にはNHK・FMで又きける。

報々会協夫太義

若手勉強会御案内

恒例、八月の若手勉強会は、若手とベテランを組み合わせるという新しい試みに挑戦いたします。先輩に負けじと張り切る若手の気迫に御期待下さい。

※八月二十日（日）二十一日（月）
※午後五時三〇分開演　※本牧亭
※八月公演に限り　八〇〇円

協会の動き

自　昭和53年6月
至　昭和53年8月

6月7日　文化庁助成学校巡演　八王子車人形参加（10頁参照）於菊華高校
6月8日　昭和53年度総会　会長・副会長挨拶。52年度事業報告・決算報告（6・7頁参照）。53年度事業計画、予算案を審議、可決。於新橋演舞場三階大食堂
6月17日　公演部会　八月若手勉強会立案於新小松
6月20・21日　義太夫協会公演会　於本牧亭
6月24日　正会員研究室　結相撲菅二代鑑の稽古開始（3頁参照）於新小松
6月28日　文化庁に芸術関係団体補助事業収支未済額精算報告書提出
7月12日　会長と若手正会員の懇談会（1・2頁参照）於須川二階
7月20・21日　義太夫協会公演会　20日には八王子車人形参加　於本牧亭
8月1日　義太夫教室初級講習会閉講式　会長・副会長挨拶、皆勤賞、精勤賞授与等を行う。於俳優協会稽古場
8月8日　会報第16号発行

特別会費二口以上の方

〔52年4月1日～53年3月31日扱い分〕

内野　正幸様（52年度10口）　五〇、〇〇〇円
小田切一鳳様（52年度2口）　一〇、〇〇〇円
加藤　利一様（〃）　一〇、〇〇〇円
加藤　道子様（〃）　一〇、〇〇〇円
菅野　光雄様（〃）　一〇、〇〇〇円
菊地　秋月様（〃）　一〇、〇〇〇円
富沢　朝光様（〃）　一〇、〇〇〇円
中村初波奈様（〃）　一〇、〇〇〇円
横山　敏雄様（〃）　一〇、〇〇〇円

寄附（昭和52年度）

〔特別会員・賛助会員の部、その他〕

都築八郎（入船堂）様　一八〇、〇〇〇円
内野　正幸様　七〇、〇〇〇円
吉田幸三郎様　四〇、〇〇〇円
奥村　土牛様　三〇、〇〇〇円
鈴木　一光様　二〇、〇〇〇円
床世話睦会様　二〇、〇〇〇円
小田切一鳳様　四、六二〇円
常原　大常様　四、〇〇〇円
小槻　周子様　一、〇〇〇円

◇慈善公演については、会報14号および15号を御参照下さい。

学校巡演レポート〔5〕

杉並区の菊華高等学校で行った学校巡回公演（文化庁助成）のアンケート結果を御報告いたします。

◇　◇

53年6月7日　同校講堂にて

解説……竹本綾太夫

卅三間堂棟由来　豊沢　公佳

木遣音頭の段　豊沢　公治

日高川入相花王　清姫　竹本駒之助

舟長　竹本　駒竜

日高川の段　三味　鶴沢駒登久

ツレ　豊沢　公佳

人形　八王子車人形

西川　古柳

一、邦楽に関心がありますか。

	1年	2年	3年	計
大変関心がある	二・六%	二〇%	六・四%	三・七%
少し関心がある	一九・四	三〇・二	三〇・六	二六・七
余り関心がない	四一・三	四〇・三	三八・五	四〇・〇
全然関心がない	三五・七	三・三	三・三	三六・八

一、全然ない人は理由を次から選んで下さい。

	1年	2年	3年	計
むずかしい	十九%	七・三%	一・二%	三・五%
スロー・テンポ	四・一	二・〇	一・三	二・五
かたくるしい	一七・一	一〇・三	八・五	一二・〇
意味が判らない	三・四	一五・七	一五・五	一七・五

一、文楽を見たことがありますか。

	1年	2年	3年	計
ナマで	六・六%	六・六%	六・一%	六・四%
テレビで	四〇・三	三五・四	四九・四	四一・七
見たことがない	四九・〇	三五・四	三三・九	三九・四

一、歌舞伎を見たことがありますか。

	1年	2年	3年	計
ナマで	一五・一%	八・二%	一四・三%	一二・六%
テレビで	四〇・六	三九・〇	五三・六	四四・四
見たことがない	三八・八	三四・一	三六・四	三三・一

一、次のものを聞いた（テレビで見た）ことがありますか。

	1年	2年	3年	計
義太夫	一〇・三%	二五%	一〇・九%	一一・三%
雅楽	三・三	一四・四	一四・八	一四・二
常磐津	二・八	二・三	五・二	三・四
新内	四・一	八・二	三・六	五・三
地唄	一・八	一・三	三・六	二・二
謡曲	九・七	六・二	四・二	六・七
清元	四・三	四・六	五・八	四・九
長唄	四・八	三・七	四・八	三九・八
箏曲	一四・五	一三・四	二六・四	一八・一

一、教科書で読んだ時とナマで聞いた時と何かちがいがありましたか。

	1年	2年	3年	計
あった	四九・二%	四九・二%	三四・三%	三一・〇%
なかった	四三・四	二六・七	二〇・三	二六・八

一、簡単に本日の感想を書いて下さい。

	1年	2年	3年	計
よかった	四〇・三%	六五・七%	七一・四%	六五・九%
大したことはない	四・八	二・四	二・二	三・一
つまらなかった	一六・七	四・八	〇	七・二
わからなかった	二八・六	七・一	四・八	一三・五
無回答	九・五	〇	二・四	一〇・三

☆　☆　☆

アンケートの回収から集計にいたるまで一切をおひきうけ下さった菊華高等学校に感謝いたします。

編集後記

会員の方から「会報の綴込余白が狭いためファイルをすると内側の一行が見えなくなる。会報第八号のように余白を二センチ二ミリ位に御配慮願う」旨の希望が寄せられました。情報過剰で、読み捨て、読まず捨て時代の昨今、ここまで気を使って下さる読者があると知って、編集部は大感激。16号発行のあとは会員名簿の準備にかかります。すっかり涼しくなる頃にはお届けできると思います。今年は記録的な猛暑とか、皆様御身お大切に。